



瀬棚小学校6年生が燃料電池の作成に挑戦

2月26日、瀬棚小学校の6年生が小型燃料電池の作成に挑戦しました。この事業は北の自然に親しむ会が主催したもので、総合的な学習の時間を利用して行われました。子どもたちは、燃料電池の仕組みを学習した後、実際に小型の燃料電池を作成しトンボの模型を動かす実験を行いました。(トンボの羽が動くたびに大きな歓声が上がっていました) そのほかにも、水素と酸素で動くラジコンや小型発電機を間近に見て、興味津々の様子でした。(前日の25日には役場で成人向きに燃料電池に関する研修会が行われました。)



燃料電池とは...「化学反応」を利用して電気を取り出すもので、ガソリンや石油に変わる次世代の発電システムとして期待されているものです。燃料として使われるのは水素で、水素が酸素と反応して水になる際に生じる電気の利用技術です。現在、水素を使うことにより二酸化炭素を発生させずに発電、蓄電が可能のため、クリーンエネルギーとしての活用が国などで検討されており、瀬棚町の洋上風力発電施設の新たな活用方法としても期待されています。

編集後記

▼表紙は瀬棚小学校6年生が行った小型燃料電池作成の様式です。水素と酸素の化学反応で電気を作るという画期的な技術は、最近ニュースでも取り上げられておりますが、こうして小学生が燃料電池について学ぶというのは、日本でも初めてだそうです。模型を使った分かりやすい説明だったため、子どもたちもすっかり燃料電池の仕組みを理解していたようです。こうした技術が今、クリーンエネルギーとして注目され、開発が進められていて、すでに自動車や家庭用発電機などに利用されています。上記で説明しているとおり、瀬棚町の洋上風力発電の新たな活用方法についても期待したいですね。

▼鳥歌で、双子の新年生、畑野末奈ちゃんと由佳ちゃんの見分け方が分からなくて聞いたところ、目の下に小さなホクロがあるのが由佳ちゃんだということでした。最初、同じ髪型で同じ服を着てからまったく分かりませんでした。

▼この間、すっかりインフルエンザにやられ、5日間も寝込んでしまいました。予防接種はしていましたが、違う型のインフルエンザのようで、5日間、関節痛と寒気と熱との戦いでした。食事もとれなかったせいか、おかげで、4キロの減量に成功しました。(〇)